

## 日本の初等学校における教育——バハイの教師として

東 俊史

バハオラのメッセージはとても明確である。バハオラの明確なメッセージをどのように把握し、理解し、実行するかは、新しいパターン的人类創造の教育につながると考える。バハオラの言葉を中心にした生活のパターン化に努力している。

生活や授業を3段階のパターンになるように心掛けている。一日ならば、朝、日中、夜。授業ならば、はじめ、中、結びだろうか。朝の祈りと瞑想では、その日の行動の目標、家族や学校の子どもの幸福等をイメージし、日中は、その具現化。夜は、目標や具現化の反省と新しいバハオラの言葉の獲得。授業ならば、はじめに学習の目標を明確にし、中で実際に確かめ、結びで評価し、反省点を次に活かせるようにする。

バハイの教師として努力している点は、1、聖なる言葉によって精神性を深める、2、教師として知識を深める、3、体力を維持する、4、感情面もコントロールできるようにする、である。

目標は、板書や画用紙等で明記しておき、いつでも参照できるようにする。学習している時でも、今していることがどの場所なのか明確にするために、テレビモニターに実物や教科書の文を映し出すようにしている。評価では、学習したことが、1、思考、2、理解、3、記憶、4、想像、5、統合化のどの内容だったのかを学習者に伝えるようにしている。今していることがどの内容なのか明確にすることは、学習者が自分自身を知ることと、どの能力を伸ばそうとしているかを知る上で効果があると考えからである。

全員参加をめざし、全文のコピーを掲示し、自分の考えを書き込ませる。自分の考えがどの文や言葉からなのか発表箇所をはっきりさせて意見を述べる。そして、個々の意見を皆が見られるようにし、大きな模造紙の中で意見のヴィジュアル化を図る。意見の中には、直接、原文の言葉からのもの、また、他の意見から触発されたものもあり、全員参加により、考えの深まりが見られる。教師の役割の中に、出てきた意見をまとめていく事が考えられる。同じ意見をまとめたり、違う意見を対立させたりと、書く場所を変えたり、色分けしたりする。つまり、思考の深まりを促すのである。他の人の多様な考えに接すると共に学ぶ楽しさも増してくる。

毎日、日々の祈りを唱えることが「アグダスの書」に明記されていることから考えると、繰り返すことの大切さがわかる。教育によって大きな影響を受ける私たち人類は、よき習慣の獲得からパターン化に努力し、神の目からみる人間としての成長を、教師自身も学習者も共に図りたい。